

## 白山神社の額

匠 瑳 探 訪  
176

豊栄地区木積集落に移  
ました。

住伝説があります。13  
39年、新田義貞の家臣  
16人が北陸地方での戦い  
に敗れた後、木積を安住  
の地とし、石川県の白山  
神社から分霊ぶんれいしたのが木  
積の白山神社とされま  
す。この言い伝えは『匝  
瑳郡誌』（大正10年・1  
921年刊行）に記載さ  
れ、長く語り継がれてき

ました。

同社の拝殿に3枚の奉  
納額が掲げられ、1月18  
日から20日までの3日  
間、村内で行われた奇祭  
ともいえる行事の様子が  
描かれ、1847（弘化  
4）年出版の『下総名勝  
図絵』に、白山大権現の  
祭礼として紹介されてい  
ます。

18日は「大根打ち」と

あり、当番  
の家に集ま  
った若者が  
午前9時ご  
ろから2組  
に分かれ大  
根を投げ合  
いました。

19日は  
「嫁祝い」と  
いい、着飾  
った新婚夫  
婦と稚児を  
並べ笛や太

鼓ではやし  
たててユー  
モラスに祝  
い笑いを誘

いました。

20日は「打ち板酒盛  
り」で、龍頭寺客殿で村  
内の16名字の家が並ぶい  
かめしい祭礼、と記され  
ています。

額が奉納された年月は  
分かりませんが、浮世絵  
師菊川英信が描いたもの  
とされています。英信は  
吉田村生まれで名を片岡  
安兵衛といい、若くして  
江戸に出て菊川英山の弟  
子として文化年間（18  
04～1818）活躍し、  
晩年は郷里で過ごしたと  
『八日市場市の沿革と人  
物』（昭和32年刊）に記載  
があります。

吉田地区の寺院境内墓  
地に村の有志が建てた英  
信のものとみられる墓が  
ありますが、「菊川一英」  
と刻まれ同一人物とまで  
は言いきれません。

額に描かれた「木積の  
大根投げ」は、明治の終  
わりまで続けられたと昭  
和40年代末に聞きました。

・（市文化財審議会委員）

依知川雅一

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



白山神社に奉納されている額